

令和7年度

運営に関する計画

中間評価

大阪市立塚本小学校

大阪市立塙本小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>(1) 【安心・安全な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 (R4 年度 75.2 R5 年度 73.4 R6 年度 72.8) ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 (R4 年度 2.42 R5 年度 1.13 R6 年度 1.25) ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 (R4 年度 57.1 R5 年度 50.0 R6 年度 66.7) ・令和 7 年度末の児童アンケートで「学校はたのしいですか」の質問に対して肯定的に答える児童の割合を全学年 85%以上にする (R6 年度 86.0) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>道徳の時間を要として、各教科、領域で話し合いやグループ活動で相互理解、共感を広げる心を引き出し、相手の立場に立って親切にする子どもを育成する。</p> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校の児童に対して担任だけで対応にあたるのではなく、学校全体で情報共有し外部の関係機関とも連携しながら対応にあたる。</p> <p>指標</p> <p>毎週の学年会や月 1 回の職員連絡会・生活指導部会において子どもの状況を共有し、課題や対応の共通理解を図る。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向 3 豊かな心の育成】</p> <p>道徳の指導内容「主として人とのかかわりに関するこ」の関連性から、望ましい人間関係を構築し、前向きな自己の生き方が自覚できるような子どもの育成を図る。</p> <p>指標</p> <p>令和 7 年度末の児童アンケートで「学校が楽しい」と肯定的に答える児童の割合を全学年 85%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 道徳の授業を中心に、相手の立場に立って、親切にする子どもの育成に取り組んでいる。
- ② 不登校の児童に対して、連絡会や生活指導部会で現状を全体共有できている。また、ケース会議などで外部の関係機関とも共有できており、担任以外でも対応している。
- ③ 道徳の指導内容に沿って、望ましい人間関係を構築し、前向きな生き方に繋がるような指導や声かけをしている。

下半期への改善点

- ① 授業だけで完結しないように、日々の生活に生かしたり、行動が伴わない児童については、個別に指導したりする。
- ② 引き続き学校全体で不登校の児童に対しての対応を行っていく。
- ③ 引き続き生活全体で見ていく必要がある。

大阪市立塙本小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
(2) 【未来を切り開く学力・体力の向上】	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を60%以上にする。(R4年度 38.2 R5年度 33.1) ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。 	
<p>[国語] R5年度3年0.96 → R6年度4年0.95 -0.01 R5年度4年0.97 → R6年度5年0.99 +0.02 R5年度5年1.02 → R6年度6年0.96 -0.06</p> <p>[算数] R5年度3年1.03 → R6年度4年0.98 -0.05 R5年度4年0.98 → R6年度5年1.03 +0.05 R5年度5年1.11 → R6年度6年0.98 -0.13</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 <p>(R4年度 70.7 R5年度 68.3 R6年度 66.0)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「理科の授業の内容はよくわかりますか。」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を65%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 「主体的、対話的で深い学び」の視点で授業づくりをすすめる。	
指標 授業研修を伴う校内研修の中で、主体的、対話的で深い学びにつながる指導を5回以上行う。	B
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 算数科の授業力向上を図る。	
指標 ・算数科『主体的に考え、話し合うことができる算数科指導の在り方』の研究授業を年3回行う。	B
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 体力づくりカードの作成や、大なわ週間や運動能力up週間などの取組を年2回以上実施し、遊びや運動を通した体力づくりを行う。	
指標 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。	B
取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・理科室の備品を整備、充実させることにより、実験や観察の学習に興味や関心を持つて取り組む環境をつくる。	
指標 ・小学校学力経年調査における「理科の授業の内容はよくわかりますか。」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を65%以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 各学級において、対話を重視した学習活動に取り組んでいる。さらに主体的、対話的で深い学びの実現を目指し、活動時間に余裕をもって計画を立て、児童が話したくなるような展開を工夫していく必要がある。
- ② これまでに、全員が参観し討議を行う研究授業を2回、隣接学年を中心に参観・討議する研究授業を2回行った。いずれも討議において成果と課題を把握することができた。今後は、まだ実施していない学年において研究授業を行う。
- ③ 現在、1学期に運動能力 up 週間を行った。また、運動会後に大繩週間やかけあし週間が控えており、今後の予定も含めて順調に実施ができている。
- ④ 理科支援員による実験準備や片付けの補助、また備品の整備や充実により、実験や観察の学習に役立てることができている。

下半期への改善点

- ① 対話の活動時間を十分に確保し、主体的な活動となるように工夫していく。また、児童が「今、何について話し合うのか」「何のために話し合うのか」を自覚できるような働きかけを大切にしていく。
- ② スクールアドバイザーの先生から、算数科における対話的な活動について指導を受け、授業に活かしていく。
- ③ 休み時間でのみんな遊びや運動能力 up 週間など児童が体を動かす機会は取り入れられているが、体力の伸びは感じられない。今後継続的な取り組みを行ったり、学年だよりなどで家庭への周知をしたりするなど、体力の向上につながるよう取り組みを行っていく。
- ④ デジタル教科書の単元に関わる内容の復習やポイントの確認を活用し、効率よく学習の知識、理解の定着を図っていく。

大阪市立塙本小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
(3) 【学びを支える教育環境の充実】 ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く) (R6 年度 52.8) ・ゆとりの日を週 1 回設定する	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 デジタル教材等を活用することで、児童の学習への意欲と学力の向上を図る。 指標 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)	A
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 会議や行事等の見直しを行うことで、業務の軽減化を図る。 指標 ゆとりの日を週 1 回設定するとともに、年度初めや学期末を除き、各教職員が週のうち 1 日は定時退勤する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① 学習者用端末利活用状況は、5 月 80% 6 月 90.5% 7 月 100% 8 月 75% 9 月 100% で、指標を大きく超えることができている。毎日、デジタルドリル・クラスルーム・スカイメニューなどを使い、学習のツールの一つとして活用ができている。
② 会議や行事の見直しを行い、業務の軽減化が行われている。また、標準授業時数を守るために授業時数の削減も行った。しかし、ゆとりの日を設定しても保護者連絡や話し合い・採点・授業準備等で定時退勤するのが難しいこともある。
下半期への改善点
① デジタル教材を引き続き活用し、学力の向上に努める ② ゆとりの日は定時退勤を心がける。また、授業準備等は夏・冬休業を利用して事前準備をにさらに努め、日々の業務軽減に活かす。さらに、標準授業時数を確認しながら来年度に向けて行事等を考慮しながら余裕のある学校運営に努める。